う昔とは違う形態であると考えられます。

そのような変化の中、子どもが安心して、健やかに成長するには、健全な大人たちが各々の家庭を築き、地域の中で繁栄させ、元気な社会を作り上げる必要があります。いつの時代も、大人としての「責任を果たすこと」が不可欠なのです。』

とご意見をいただきました。時代の変化に伴い、親もまた大人に成り切れていないと感じているようです。ですが、子を持つことで親もまた成長するとも指摘しています。

山﨑　この意見は、まさに今の世代の親というものを言い当てています。確かに、ある時代から見れば男性が保育に関わるようになってきたり、変化が見えてきています。ですが、親御さんと話したとき、コミュニケーションが十分とれないときがあります。つまり親としてまだ慣れていないんだ、と感じるのです。

そして、もう一つ変化を感じるのは、保育園にしつけから何まで全部教育をお願いをしてしまう方がいることです。それは家庭でもやることですよね。

市長　核家族化が進み、親の親、つまりおじいさん・おばあさんの知恵が伝わっていないところは私も感じます。

山﨑　私の働く保育園では2か月に1回、特別養護老人ホームに行きます。そこで児童が高齢者の方と歌ったり踊ったりするのです。でも、最初は子どもが戸惑うんですよ。普段おじいさん・おばあさんと生活していませんから。でも帰るころには遊べるようになる。こうした体験も非常に大切だと考えます。

青柳　里江子氏

司会　一方で、子育ての悩みを打ち明けられず、抱えてしまっている人も多くいるのではないでしょうか？

山﨑　そういう方は出前保育で一緒に遊んで解消できる方も多いんですよ。子どもは先生が見ますから。お母さん同士で話をして、悩みを打ち明けたりね。

司会　坂本(有)さんは子育てに関する不安はありそうですか？

坂本(有)　もちろんまだ実感はありませんが……私の兄の子どもが近々生まれるんです。やはりそういう姿を見ていると大変そうだなぁ、と思いますね。

青柳　でも、親族が子育てをする姿を見ると、「自分の時は……」って考えますよね。それもすごくいい経験ですよ。

司会　親族以外でも、福生では「子育てサロン」のような、地域のお母さん方が子育て中のお母さんにアドバイスをしてくれる場が増えています。そうしたものを利用するのも一つの方法ですね。

山﨑　また、市内の保育園はほとんど園庭開放をしています。悩みがあれば先生といろいろ話をするのもいいですね。

今、教育・保育の「現場」では

坂本（丁）　市の新しい事業の中に、スポーツが好きな子どもを育てるという「ジュニアスポーツ体験育成事業」があり、福生でも特色ある教育を進めていると感じています。一方、私は「学力的に優秀な子を育てる」というのも大事なこと―特色になると思うんですね。

例えば福生の小・中学校出身の子が「毎年東京大学に進学している」なんて実績を作るのも、まちの魅力向上につながるのではないでしょうか。

そうした子が出ることで、他の子も続くと思うんですね。多摩地区は毎年東京大学に行く子が約100人いるそうです。だから福生から行く子が出れば、それが話題になる。そして良い波及効果になるのかな、と。

市長　確かに、イメージ作りは大事だと考えています。外から見ると、福生は「横田基地」の印象が非常に強い。そこから「福生に住むと英語ができるようになる」というイメージが作れればいいなと思っています。

司会　学力向上のお話がありましたが、現場を知る青柳さんから学校の状況などをお聞かせいただければと思います。

青柳　まず第一に、現場では校長先生を始め、先生方が本当に忙しく尽力されている、という印象を強く受けます。

市長　福生市は約10年ほど前、学力が大きく低下してしまったことがあり、そのイメージが引きずられています。教師・子どもたちは頑張ってどんどん良くなってきているのですが、その悪いイメージが一人歩きしているのは残念です。

青柳　そうですね。現場の先生には頑張っていただいています。

ただ、時代とともに子どもが育つ環境も複雑に変化したことで、今は学校も多岐な対応を迫られるようになってきています。私のような学校支援コーディネーターが必要になるのもそのような背景があると思います。

司会　青柳さんの仕事について少し詳しく伺ってもいいでしょうか。

青柳　今は昔に比べて教師の異動のサイクルが短くなりました。そのため地域を深く知ることが難しくなってきています。そこで、地域・教育のことで困っているところを調整するのが私の仕事です。

福生第一小学校では学習支援に重きを置いています。例えば、日本語学級において、外国から越してきた日本の学習に付いていきづらい外国籍のお子さんに寄り添い、学習を支援してあげるのです。

また、例えば福生第一小学校校庭には芝生が入りましたが、その管理も子どもが加われるように調整したり、あらゆる支援に携わっています。

市長　約60か国、約2,500人の外国籍の方が住んでいる福生です。いろんな文化もあります。だから現場の中に入って、そうした支援をしてもらえるのは本当にありがたいことですね。

山﨑　こうした環境は特別です。先日も、「福生では国籍の違いに対して抵抗感が少ない」とおっしゃる親御さんの話を耳にしました。

実際、子どもたちを始めとして、肌の色や国籍に違和感が少ないと思います。

坂本(有)　やはり私の学校にも外国籍の子はいましたが、その子とは今でも仲良しですね。

市長　福生で育つということは、小さい時から国際人としての素養を育むということなんです。これはすごく大事なことだと思いますよ。

子どもが健やかに「育つ」まち

司会　最後になりますが、「子どもが健やかに育つまち」に必要なもの。またはそれに対する想いをお聞かせください。

まず、森田さんのお手紙を紹介します。

(以下代読の要約)『来秋、福生市では東京国体で成年女子ソフトボールが行なわれます。スポーツが子どもに夢や感動を与え、地域社会が一体となり、大会の目的「明るく豊かな国民生活」につながることを願っています。また微力ながら大会の盛況に尽力していく所存です。』

というお言葉をいただいています。

山﨑　私の家庭もスポーツ一家でした。小さいころは朝早く起きて子どもと野球の練習をしたり。やはり、身体は丈夫でなければいけない。その基本を作るのは小さいころからの生活だと思います。幸い、福生には競技場や公園もたくさん揃っている。いつでも親子で気軽に運動が楽しめることは大きな魅力です。そうした地域資源の活用性を改めて見直さなくてはいけないと思っています。

坂本（丁）　国体の話が出ましたが、まだ盛り上がりに欠けているような気がしています。地方では国体はすごく盛り上がる。というのも地方は、文化でもスポーツでも、「生」のものをみる機会が少ないですから。逆に東京ではそれが簡単なので東京国体は盛り上がらないのかなと考えています。

坂本　丁次氏

ただ、「生」のものの良さを私は常々訴えているところです。従って、「健やかな育ち」ということを考えると、福生でも子どもたちに「生」のスポーツ・文化を積極的に見せてあげる。それが大事だと思いますし、生きがいになると思います。

青柳　以前、市民会館で劇団四季の公演があったとき、娘と一緒に見たことが強く印象に残っています。親子で興奮しながら見たのを思い出しました。そうした市民の心に強く残るようなイベント・公演をたくさん開いて欲しいですね。その経験・記憶が子どもの将来や夢に結びつくといいな、と思います。

坂本(有)　私は今、舞台、ミュージカルの観劇にはまっているんです。10代の若い世代の俳優さんが登場するものから、それはバレエだったり、いろいろなものを見に行っています。そうしたものが福生でも見られたら嬉しいですね。

司会　スポーツや文化の体験等が、子どもたちの健全な身体と精神を養う、と皆さんお考えのようですね。行政や、地域の皆さんとでそうした環境を整備することは、我々大人たちの責務なのかもしれません。

市長　今日は貴重なご意見をありがとうございました。住み続けたいまちを形に変えるべく、市政運営を続けているところです。今日いただいたご意見も参考にしながら、今後4年間も頑張っていきたいと思います。